



日本基督教団 梅ヶ丘教会会報

ぶどうの木

発行人 牧師 広田叔弘
企画編集 広報委員会
www.church.ne.jp/umegaoka/
2021年 3月28日発行

〒155-0033
東京都世田谷区代田 3-37-7
TEL : 03-3414-5772
FAX : 03-3414-5778

第214号 2021年 4月号



『主の恵みに生かされて』

牧師 広田叔弘

さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った。そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。

マタイによる福音書 28章16、20節

この日、弟子たちは山の上で復活の主イエスと出会います。一同は礼拝をささげます。ところが、中には疑う者もいた。復活の主を見ながら疑うのであれば、この先の言葉はなくなってしまう。しかし主は、このような弟子たちに自ら近づき、全世界に対する伝道命令を与えます。弟子たちは命令に応えました。すると、不思議なことが起こります。ボンヤリしていた弟子たちは力強い使徒になっていきます。殉教の死に至るまで、全世界に福音を宣べ伝えていくのです。

緊急事態宣言が解除されました。一月三日

に礼拝堂で礼拝をささげて以来、十一週、私たちは共に集まることができませんでした。

自粛期間中、私たちは何を考えていたのでしょうか。共通した思いの一つは、「主に結ばれた隣人が必要」ということではないかと思えます。素朴に、「教会で、皆で礼拝をささげたい」と、思ったはずですが、私たちが聖霊によって結ばれ、キリストという一つの体を形作っているとはこのようなことです。それは、時に苦痛を覚えるほど、共に集まって礼拝をささげたくなるのです。

私たちは信仰と共に不信を抱えています。主イエスを見ながら疑いを抱く弟子と同じ有様です。しかし主は、そのような私たちを召し、自ら近づいてくださいます。私たちの信仰の根拠は、私たち自身にあるのではなく、主が召してくださったからです。主が、私たちが愛して放さないのです。それだけではありません。主は弟子たちに伝道命令を与えました。これは、今日の弟子である、私たちに与えられたものと捉えることができます。

共に礼拝をささげられることに感謝しましょう。そして、恵みに応えて伝道命令を果たしたいと思えます。信者の獲得をするのではなく、証しするのです。このとき私たちは、力強く、復活の主と共に生きることになります。